

平成22年(2010年)10月18日  
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 イネ南方黒すじ萎縮病(仮称)  
(病原ウイルス: Southern rice black-streaked dwarf virus (SRBSDV, 仮称))

2 特殊報の内容 新発生

### 3 発生経過

(1) 発生確認月日: 平成22年9月28日

(2) 発生地域: 山口市、長門市

(3) 発生状況:

平成22年9月28日に山口市大内御堀のイネ(品種: ヒノヒカリ)、長門市三隅のイネ(飼料用品種: 北陸193号)において、株が萎縮する症状が確認された。後者は、坪状に激しく萎縮していた。ウイルス病の可能性が示唆されたため、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターに診断を依頼した結果、県内未発生のイネ南方黒すじ萎縮病(仮称)であると同定された。

(4) 他県での発生状況

本病は平成22年8月に熊本県で国内で初確認され、その後、鹿児島県、広島県、長崎県、宮崎県で発生が確認されている。

### 4 本病の特徴

(1) 病徴

生育初期に感染すると株は萎縮する(図1)。葉は葉身および葉先がねじれ、激しい場合はらせん状(図2)となる。出穂期以降は茎や葉鞘に黒すじが発生する。穂は矮化し、不稔や粃の褐変、上位節からの異常な分枝、止葉の小葉化(図3)などの症状が認められる。

(2) 伝染経路

ア 本ウイルスは、セジロウンカ(図4)によって媒介されることが確認されている。

イ 本ウイルスは、レオウイルスに分類される。既知のレオウイルスは媒介虫によって永続的に媒介されるが、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染しないことが知られている。

(3) 感染植物

イネのほか、トウモロコシ、イヌビエ、ミズガヤツリで感染が確認されている。

### 5 防除対策

(1) 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、箱施用剤を処理するなど、生育初期からセジロウンカを防除する。

(2) 飼料用イネでは、用途に応じて「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(稲発酵粗飼料推進協議会等編)もしくは「多収米栽培マニュアル」(農林水産省編)に沿って防除を行う。



図1 株の萎縮(左側)



図2 らせん状になった葉身



図3 止葉の小葉化



図4 セジロウンカ